

副都心線開業記念(平成20年6月14日)

雑司ヶ谷霊園 MAP



豊島区立中央図書館



雑司ヶ谷旧宣教師館

豊島区
観光案内

雑司ヶ谷霊園 MAP



豊島区立中央図書館

現在の雑司が谷かいわい 歴史の深い懐に抱かれた そぞろ歩きに「発見」が

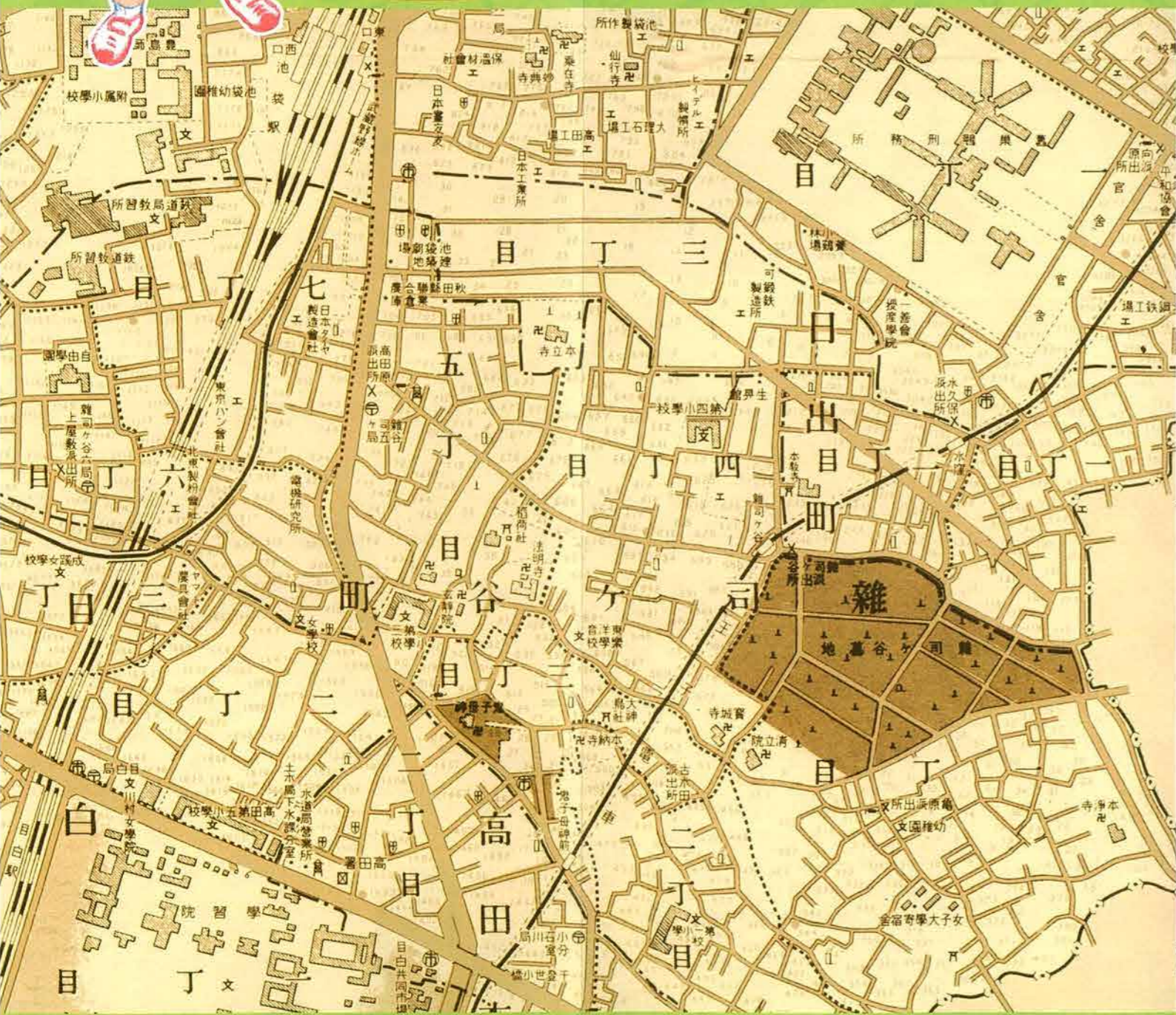
江戸時代を偲ばせる鬼子母神参道の榎並木、法明寺の桜。郷土玩具「すすきみみずく」も今に伝えられ、霊園の東西には「旧宣教師館」「みみずく資料館」もあり歴史の懐の深さが今も残っています。
芭蕉の高弟である雪中庵嵐雪(せっちゅうあんらんせつ)や新劇運動の秋田雨雀(あきたうじゃく)などの眠る周辺の寺に訪れる人も多く、そぞろ歩きに発見がある町です。近くには、新しく開館した中央図書館もあり、散策帰りに歴史書などをひも解いてみてはいかがでしょうか。

昔の雑司が谷かいわい 文人に愛された緑の土地 都市化で川も暗渠に

75年前の左の地図(豊島区発足直後)と地下鉄「雑司が谷駅」のできた現在の右の地図を比べると、大きな変化が見受けられます。池袋東口にあり、詩人三木露風(みきろふう)が住んでいた根津山は削り取られ、護国寺に向かうグリーン大通りとなり、巢鴨刑務所はサンシャインシティへと変わっています。また、雑司が谷を流れ下っていた弦巻川は暗渠となっています。江戸のころには太田蜀山人(おおたしよくさんじん)ら文人に愛された緑の土地でした。



左の地図は昭和7年10月1日豊島区発足直後のもの。右の現在の地図と見くらべてください。



「番地入新大東京市三十五区分図之内 豊島区詳細図」(部分 1933年発行)
(豊島区立郷土資料館編集「豊島区地域地図 第1集」(1987年発行)所収のものを使用)

発行：豊島区文化観光課
東京都豊島区東池袋1-18-1
TEL: 03-3981-1316 FAX: 03-3981-3069
E-mail: A0014503@city.toshima.lg.jp
執筆：伊藤榮洪(豊島区図書館専門研究員、元区史編纂委員)
イラスト：矢口由美子(デザイン室あとりえ)
印刷：西武写真印刷株式会社
2008年3月発行
豊島区観光案内ホームページ
<http://www.city.toshima.tokyo.jp/kankou/>

雑司ヶ谷霊園

御料地として、3代将軍家光の寛永15年(1638)に薬草栽培の御薬園となり、8代将軍吉宗の享保4年(1719)には御鷹部屋に変わり、将軍の鷹狩りに使う鷹の飼育場所として使われていたところです。御鷹部屋時代の松の大樹が今も霊園内に残っています。明治7年(1874)9月1日に東京市によって共同埋葬墓地となりました。現在の地番は南池袋四丁目25番。広さは約10万㎡です。



豊島区 観光案内



雑司が谷旧宣教師館

東京都立 雑司ヶ谷霊園MAP

～霊園は故人が眠る慰霊の場所です。節度を持った行動をお願いします～

享楽に生きた反骨。
永井荷風 ながいかふう (1879～1959)
1-1号7側3番

墓を作るなら「浄閑寺に」と言っていた荷風の墓が父久一郎(禾原・かげん)と並んでいる。時代に背を向けて江戸趣味を追い、上田敏の言う「真の享楽主義者」としての生を貫いた。「柳橋新誌(りゅうきょうしんし)」の成島柳北を深く慕った。



日本びいきのコスモポリタン。
小泉八雲 こいずみやくも (1850～1904)
1-1号8側35番

父はアイルランド人、母はギリシャ人。アメリカで新聞記者などをしたあと来朝して帰化。東大講師時代、哲学の講師ケーベルと同僚であった。講師辞任の時、小説家の武林無想庵(たけばやしむそうあん)らが留任運動をした。

開明派の「最後の幕臣」。
小栗忠順 (おぐりただまさ・上野介) (1827～1868) 1-4号B5側35番

「明治の父」と司馬遼太郎が言う、幕末の開明派の幕臣。「日米修好通商条約」批准で渡米。その随行艦「咸臨丸」には勝海舟、福沢諭吉ら。中濱(ジョン)万次郎が通訳をした。岩瀬忠震(いわせただなり・肥後守)も開明派の幕臣。



心やさしい言語学者。
金田一京助 きんだいちきょうすけ (1882～1971) 1-22号5側24番
アイヌ語また、アイヌの叙事詩「ユーカラ」の発掘や言語研究で業績を残す。若い日に新詩社の「明星」に加わり短歌に親しむ。中学の後輩石川啄木を短歌に誘い、物心両面で支えた。この「明星」には一時、歌人窪田空穂も加わっている。

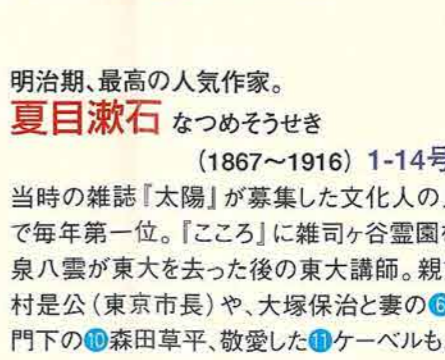
誠実に愛し、尽くした。
泉鏡花 いずみきょうか (1873～1939) 1-1号13側33番
10歳で失った母の鈴を生涯追慕し、師の尾崎紅葉を神格化するほどに仕えた。芸者(本名すず)との結婚を紅葉に反対されたいさづが小説「婦系図(おんなけいず)」に。新派の舞台で多くの人の涙を誘った。名優喜多村緑郎もここに。



大正ロマンの叙情画。
竹久夢二 たけひさゆめじ (1884～1934) 1-8号9側32番
「大正ロマン」を代表する画家であり詩人。「夢二式」の美人画や「宵待草」などの叙情的な詩歌が大流行。若い日に雑司ヶ谷に住む。島村抱月に目をかけられ、また羽仁もと子の「婦人之友社」で絵画主任、さし絵を描く。墓の文字は画家の有島生馬。



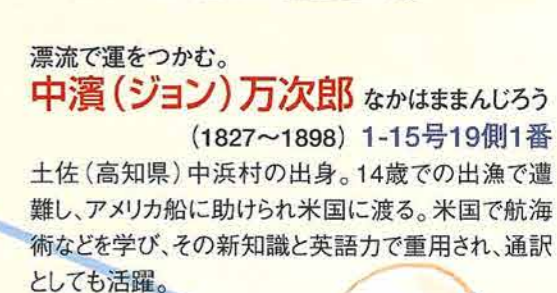
明治期、最高の人気作家。
夏目漱石 なつめそうせき (1867～1916) 1-14号1側3番
当時の雑誌「太陽」が募集した文化人の人気投票で毎年第一位。「こころ」に雑司ヶ谷霊園を描く。小泉八雲が東大を去った後の東大講師。親友の中村是公(東京市長)や、大塚保治と妻の楠緒子、門下の森田草平、敬愛したケーベルも。



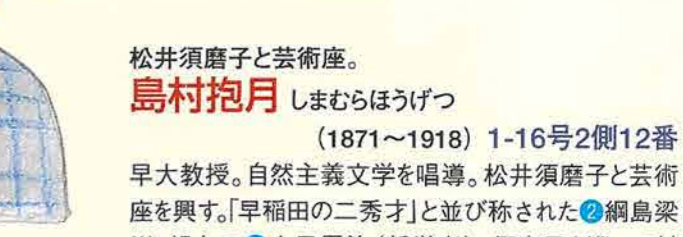
漂流で運をつかむ。
中濱(ジョン)万次郎 なかはままんじろう (1827～1898) 1-15号19側1番
土佐(高知県)中浜村の出身。14歳での出漁で遭難し、アメリカ船に助けられ米国に渡る。米国で航海術などを学び、その新知識と英語力で重用され、通訳としても活躍。



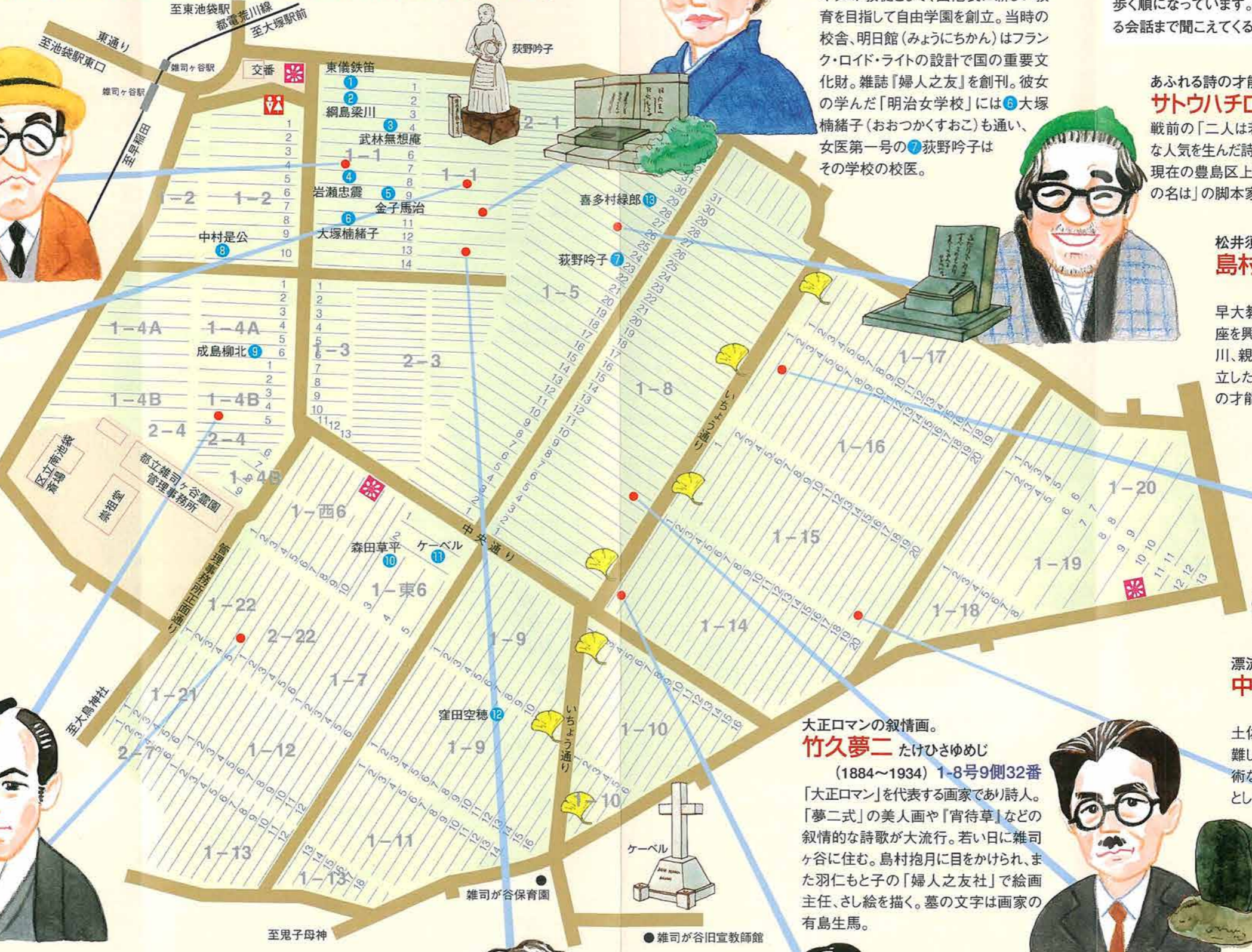
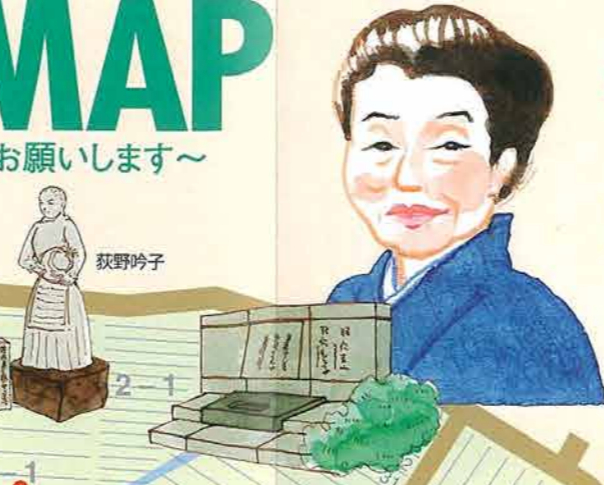
松井須磨子と芸術座。
島村抱月 しまむらほうげつ (1871～1918) 1-16号2側12番
早大教授。自然主義文学を唱導。松井須磨子と芸術座を興す。「早稲田の二秀才」と並び称された網島梁川、親友の金子馬治(哲学者)、須磨子を巡って対立した東儀鉄笛(早大校歌の作曲者)。竹久夢二の才能を愛した。



あふれる詩の才能。
サトウハチロー (1903～1973) 1-5号25側25番
戦前の「二人は若い」、戦後の「リンゴの唄」の流行歌で圧倒的な人気を生んだ詩人。若い日の無頼を心配した小説家の父紅緑は、現在の豊島区上池袋三丁目に世帯を持たせた。ラジオドラマ「君の名は」の脚本家菊田一夫も同居。



理想を教育・出版で。
羽仁もと子 はにもとこ (1873～1957) 1-1号10側42番
キリスト教徒として、西池袋に新しい教育を目指して自由学園を創立。当時の校舎、明日館(みょうにちかん)はフランク・ロイド・ライトの設計で国の重要文化財。雑誌「婦人之友」を創刊。彼女の学んだ「明治女学校」には大塚楠緒子(おおつかすおこ)も通い、女医第一号の荻野吟子はその学校の校医。



＜凡例＞
 トイレ
 花屋